



「農業を継ぐ」

(常盤地区・上水沢)

がんばっています！
— No. 49 —

高橋 敦紀 さん
あつのり

【農業の道へ】

祖父の代から養豚と稲作、アスパラガスを栽培している農家の4人兄弟の3番目に生まれ、子どもの頃から農業は身近な存在でした。

豚舎にはさまざまな機械があり、とても興味を持ち学校から帰宅後は、豚の世

話の手伝いをしたり父と一緒に機械を操縦したりしていました。今となれば農業の道に進んだ一つの理由かもしれません。

【資格を取得】

いろいろな資格が取得できると知り、下高井農林高校に入学しました。危険

物、毒劇物、フォークリフト、クレーン、車両系建設機械などの資格を取得しました。

その後、より専門的な農業の知識を身につけるため長野県農業大学校指導学部に進学し、水稲栽培の勉強や大豆栽培の研究をしました。そこでさらに多くの資格を取得しました。

就職を考える時には農業機械メーカーへの就職が就農か迷いましたが、家業である農業を守っていきたくいと強く感じたため、継ぐことにしました。(当時は、朝起きるのが苦手な始業時間が決まっている会社よりも家の方がルーズに時間設定ができるから就農してしまったのかもしれませんが。(笑))

【米農家へ】

6年ほど前に、長野県のブランドでもある「みゆきポーク」の生産をやめてしまいました。就農して約20年になります。現在、私

は稲作を中心に約30畝の圃場でコシヒカリや風さやかといった銘柄のお米を栽培しています。

3月下旬の水路の泥上げを皮切りに耕起―代掻き―田植と、機械に乗り続ける日々を送り、6月から春作業の片付け、畦畔の草刈り、溝切りなどの管理作業を行い、7月上旬から盆過ぎまでラジコンヘリコプターを使用した水稲防除に全国各地へ出かけています。9月からは収穫の喜びを感じながら稲刈りが始まります。10月下旬には秋作業の片付けをして飯山の長い冬になります。

お米の消費量が少なくなっている日本ですが、おいしい飯山のお米を作ることに誇りを持ち、新たなことに挑戦し続けたいと思います。さらに次世代への引き継ぎについては、4人の子どもの誰かが農業を好きになって一緒に農業をできたら幸せだと思います。



あぜ道だより



飯山地区農業委員 高橋 政宏

農業委員に就任させていただき早いもので半年が過ぎました。私は普段小売店を営んでおり農業経験は全くありませんでしたが、農業と利害関係を有しない中立委員として選出されました。所属しているみゆき野青年会議所から推薦をいただき、農業委員として活動するご縁をいただきました。

農業委員会の活動の中では、農業委員会に所属しなくては触れることができない貴重な体験があり、日々勉強させていただいております。また、購読するきっかけをいただいた全国農業新聞によるさまざまな情報には、驚きや発見があります。佐賀大学が開発している水田に設置するだけで発電する泥の電池は革新的な技術で、私が見ゆき野青年会議所で学んだSDGs(持続可能な開発目標)に通じる話だなと思いました。そ

して、一番印象強いことは、どの掲載記事の写真も皆さん素晴らしい笑顔でいることです。自身が行っていることに楽しさややりがいを感じているからこそ素晴らしい笑顔が生まれていると思います。

今、農業は少子高齢化による担い手不足や、昨今増加している気候変動や災害により、今までどおりの農業が難しくなっているのではないかと感じております。そんな難しい状況下ですが、農業に携わる方が多くの笑顔をつくれるように私自身より一層の勉強をし、微力ではありますが、飯山の魅力の一つでもある田園風景を守っていく一助となるよう励んでまいりたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

あしあと1・2月の活動記録

- 1月 7日 農業委員会役員会
- 26日 1月農業委員会総会
- 2月 10日 農業委員会役員会
- 24日 2月農業委員会総会
- 〃 農業振興・農政対策委員会

次世代に引き継ぎのできる地域を目指して

農地利用最適化推進委員 酒井 智恵子

地区農業再生センターは、5年後10年後どのように農地を守りどのように地域の活性化を図っていくのかという地域の問題を、農業者や住民と協働で取り組む役割を担っています。

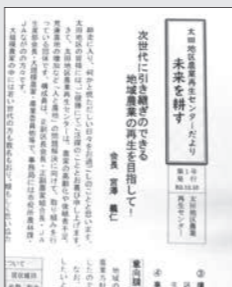
平成25年と令和2年にアンケート調査を行いました。令和2年のアンケートでは「後継者がいないまたは不明」が84%と多く、「後継者がいる」は12%でした。また、5年後、耕作農地については「縮小または現状維持」が86%、「拡大」が3%と、改めて後継者(農業従事者)と耕作農地の維持が課題として浮き彫りになりました。

将来についての考えや要望では、中山間地の荒廃対策、農業従事者の高齢化、後継者不足、用水路等の維持管理、農業観光地として

再開発などがありました。アンケートの結果や当センターの取り組み等を周知するため、広報紙「未来を耕す」を発行したり、さまざまな課題を解決するため、太田地区の将来について語り合う会を昨年3回開催しました。

第1回は2人の若手農業者の想いを聞いたり、来場者全員で今後の取り組みについて話し合いました。第2回は第1回に出た意見を「農業と多分野との連携・協働」、「人材の育成と支援」、「農業のしやすい環境の整備」と3つのグループに分けて意見交換会を行いました。そして第3回は、そのグループごとに将来ビジョンを作成、発表を行い、参加者全員で評価しました。

この3回の会をおし、最終目標の「次世代に



▲ 広報紙「未来を耕す」



▲ グループに分かれて意見交換

引き継ぎのできる太田地区農業の再生」 〓 「元気で輝く太田地区」に向かい、1人だどできないことも力を合わせると成功させることができる、着実に前進できるのではないかと感じました。

これからは、農業分野だけでなく、宿泊や観光、福祉などできるだけ多くの分野との連携・協働が必要となります。目標を達成させるため地域の皆さんとともに活動していきたいと思っております。